

## そもそもの石碑

三和から遠野に向かっていました。普段は上三坂から新田を通りますが、沢渡から近道をしようとして林道に入り込み迷走…。なんとか下り始めるに、開けたカーブに大きな石碑が現れました。「軍馬戦没慰靈碑」。



かつて遠野村は名のある馬産地であり、この山一帯が放牧地であったそうです。戦争中多くの馬が大陸に渡り、その命を落としました。入遠野出身の折笠章隊長は、馬のたてがみの一部を持ちかえり、この山に弔ったとのことです。建立は昭和63年。馬産ですか。

## 遠き野への入口

県道20号線に出て、入遠野方面に下りて行くと入定という集落があります。の人ならそういう話を聞けると思うよ。そう紹介されたのは折笠包芳さん。



「昔はどの家でも1頭2頭はたででだもんだ。なんかんで田んぼには必要なんだがら。トラクターなんてねえもの。」春は代搔きに使い、夏は堆肥をとり、秋口に山に放し、春にまた里に降ろしてくる。これが馬との1年。「羽前場に当才仔馬の『おせり』がたったもんだ。」羽前場というのは、現在の地名では猫塚。遠野高校の下の住宅地となっている場所です。「おせりは3日たつた。弁当もってて酒飲んで。おせり場の外では、香具師がこうクシャクシャっと紙丸めて、クジ引きみでなゴドしてだ。目の前で人が当たるもんだがら、わがもわがもど引いで、みんなとられっちまーだ。それがサグラだなんて分がんねもんだがら。あはは。」



図書館で調べると、「おらがまち遠野」(遠野町青年会上遠野町分会)といいう素晴らしい本に、かつての「おせり」の写真が掲載されていました。昭和32年。馬を引く青年に群衆の目が注がれます。熱気が伝わってくるよう。

## 朝もやの入遠野

撮影／折笠 一

往生山中腹の林道より撮影したもの。現在は周辺の木々が成長してしまったため、同じ景色は見られないとのことです。

いざようとは「ためらう、躊躇する」の意。十六夜の月は、満月よりやや遅れてのぼることから、月がためらつていると見立てて「いざよい」といいます。満月祭も終わった初冬の遠野。ゆづくり、ゆづくり、辿りましょう。はじめより、山中で出会った、とある石碑です。

# 遠野散歩いざよう



マークはミミが勝手に認定します！

レポーター  
わがまち発信隊員  
ミミちゃん

茶の間に飾られている写真に目が留まりました。これは?「徳溢大師の塚。あったっべや、そごさ。」官沢集落の折笠一さんという方が何度も通って来て撮影し、後にいただいたものだと。『まあ、証拠はねえだけど、そごさミヨーカグザっていう場所がある。ヨザイグザで場所もある。ミヨーカグザに身を隠して、夜になっと、ヨザイグザで仏像を彫ったつーだな。残ってねえがら、木彫りなんだが、石なんだが、それは分がんねんげんと。』

## 光と影が遺すもの

官沢川を上って折笠一さんの家を訪ねましたが、お店は好間にあるとのこと。え?実はハジメさん、写真屋さんでした。好間の「写真やオリカサ」へ。

「包芳さんの家にはだいぶ通ったよ。ホタルなんかも撮った。」2007年3月、「里山」～いわき市遠野～という、遠野の写真だけを集めた写真展を行ったことがあるそうです。入遠野を俯瞰した朝もやの写真が幻想的。



遠野から馬が消えたのは昭和40年頃。今からもう50年前ですね。



「おらがまち遠野」より  
他にも写真は残っていないでしょうか。上遠野公民館にいってロビーの書架を眺めていると、膨大なビデオデータが目に飛び込んできました。何これ?



一般の方が、遠野のいろいろな行事を映像におさめ、丁寧に編集して寄贈してくれたそうです。根岸の蛭田登さんという方。馬の映像はもちろんありませんでしたが、どうしても登さんに会ってみたいになりました。行ってみましょう!

若い頃から8ミリカメラが趣味だったという登さん。退職後、紙漉き職人瀬谷安雄さんの仕事を3ヶ月追い、「遠野和紙」という10分の作品を作成。これがいわき市制30周年ビデオコンテストで見事最優秀賞を受賞し、ますます映像にのめり込んでいったとか。録りためた遠野の映像はなんと500本以上!そのうちの96本を公民館に寄贈したそうです。また、それを収納する棚や、ビデオデッキ、モニターも登さんによる寄贈。



書ききれないほどのお話を伺いましたが、ある歌碑建立のエピソードが印象に残りました。入遠野川が鮫川に合流する地点にその歌碑はあります。

「ふる里の大山川は村焼  
二つの川の落ち合ふところ」



## 想いと歌、石と地図

2009年4月29日、読売新聞朝刊「平成万葉集」の記事に、最年長104歳で入選された神宮宇シフさんの歌が掲載されていました。それは故郷いわきでの歌ったもの。入選の報が届いたのは、シフさんが亡くなった1ヵ月後だったそうです。この記事に目を留めた生田目三雄さんは、数日後、行き会った上遠野幸雄さんにこの話をします。大山川は、遠野の大山川ではないのか。



シフさんは遠野町根岸の生まれ。歌碑建立が縁となり、山梨県身延町との交流が始まりました。震災時は義援金も寄せられたとのこと。故郷への想いが、遠く離れた2つの町を繋ぎました。シフさんの生涯、いつか辿ってみたいですね。

